

学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓のうえに打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、社会が多様化し、国際化・情報化の時代を迎えている。本校では、菅平の自然・歴史・産業・文化を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自己教育力を身につけ、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

めざす子どもの姿（中期目標）

- ① 自分で考え、判断し、行動できる子ども
- ② 自分や友達の良さを認め合える子ども
- ③ 仲間と協力して課題を解決していこうとする子ども
- ④ 自らを鍛える逞しい子ども
- ⑤ 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども

【学校長の願い】 「全ての教育活動を子ども理解をベースに展開して」

1 学力の向上について

24年度は「自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす」を重点目標とし重点活動を①「興味や関心を高めるための、めりはりの場面を仕組む授業を行う」②「小中連携の中で、学習内容の系統を意識した、児童・生徒の学びの質の向上を図る」として取り組んだ。その結果小学校では時間を忘れるほど授業に熱中する姿や、相互にかかわってお互いの意見を大切にしながら活動する姿が見られるようになった。中学校では生徒一人一人が問題意識を持つようになり、目の前の課題に対して願いが生まれてきた。小中乗入授業では、特に中から小へ出向く際には、子どもたちの言葉を大切にしたり、授業の間隔が開く教科では前時の復習を必ず行ってから授業に入ったりして学習を進めてきた。その結果授業を待ち遠しく思い、休み時間から教科担任を呼びに来るなど積極的な姿が見られるようになってきた。そこで25年度は重点目標（1）を継続し「自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす」とし重点活動①を「小中連携の中で学習内容の系統を意識した児童・生徒の学びの質の向上を図るためのTTのあり方を研究する」重点活動②を「中学校卒業時の学力を意識した、9年間の学習の過程のあり方や、各学年の発達に応じた指導のあり方を研究していく」とした。

2 心の教育について

24年度は「互いの良さを認め合い、気持ちが前向きになれる集団生活をめざす」を重点目標とし、「教師自らが子どもの良さを伝え、児童・生徒の意識を啓発する」を重点活動とし取り組んできた。アンケート結果を見ると全体的には高い評価を得ているが、小学生では「先生は友だちの良いところを示してくれる」でそう思わないが20%という結果になり、教師側の思いが十分に伝わっていない実態も見えてきた。そこで25年度は重点目標（2）「互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす」とし、重点活動①を「教師自らが子どもの良さを伝え児童・生徒の意識を啓発する」を継続し、さらに「小中それぞれの段階に応じたコミュニケーション能力やよりよいかかわり方を身につける」を重点活動②として取り組んでいく。

3 キャリア教育について

菅平では80%以上の保護者が地元産業に就き、また25～35歳の男子卒業生の53.4%は菅平に戻って生活をしているという特徴がある。子どもたちや地域の将来を考えたとき、菅平の産業（農業・観光業）に携わりながら、地域の発展のために積極的に関わろうとする人材作りは欠かせない。24年度は重点目標を「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」とし、スキー指導を職業体験に付け加え、菅平の産業に触れる機会を設けた。25年度は地域の人材を掘り起こし、かかわりを作り、計画的に菅平の産業に触れる機会を得たいと考え、重点目標（3）「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」を継続し、重点活動を「地域との交流を通して、この地に生きることの喜びを実感させる」とした。

今年度の重点目標

- （1）自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。
- （2）互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす。
- （3）菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。